
侍ノ刀

アンテナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

侍ノ刀

【Nコード】

N2142I

【作者名】

アンテナ

【あらすじ】

どのくらい昔だろう。

一人の侍が世界を救う。

その侍が時を越え、現代に生きる。

だが、現代に生きる侍こと秋山大地はそんな自覚はない。

大地の足にあるキズ。

侍はなぜ世界を救うことになったのか？

現代に現れるバグという敵。

そして、侍ノ刀とは…

現代に生きる侍

ある時代に一人男が生まれる

その男の足には生まれた時からある傷がある

そして男は侍になる

その男の名は…

『大地』

西暦2010年5月10日

武井高校

起立、礼 おはようございます

クラスみんなが先生に挨拶している中で一人だけあくびをかいている人がいる

2年1組 秋山大地だ

いつも朝礼ギリギリで教室に入ってくる ボサボサの髪にシャツの袖がでてる。 あくびしている大地に先生が気付く

「おい、大地 昨日も例のやつやってたのか？ そんな下らない事してないで 少しでも成績が上がるように勉強するか、遅刻しないように早く寝るようにしろよ」

と、馬鹿にされたように言われる 『例のやつ』とは何だ 先生の話しなんか聞きもせずに目が飛び出るといわんばかりに睨んでる

「大地何やってんだ？」

隣の席の山本健吾が聞いた

「漫画とかによくあるだろう、なんとか眼とかいって目で倒すやつ俺にもそんな力があるかどうか試してんだよ」

大地は本気だ 友人は呆れている 馬鹿だな：

そんな睨み攻撃が効いたのか、先生が急に倒れたのだ。 クラス全員が驚いている中で以外にも大地が真っ先に先生のところに駆け寄り、先生の状態を確認する。 声をかけるが返事がない 大地は先生の胸に耳をあて、心音を聞く「ドクン ドクン」 心臓は止まってないみたいだ。 すると、隣の教室からざわざわと声が聞こえる。 大地は先生をそおつと床に寝かせるとすぐに隣の教室に行った。 そこには、また先生が倒れていたのだ。 大地が先生の状態を確認しようとしたその時、バタツ と生徒がひとり倒れた。 それに続くようにまたひとり またひとりと倒れていくのだ。

「なにがおきてやがんだ」

大地は混乱しながらも何が原因なのかを考えているが、当然分かるわけもなく ただ教室全体を見ている。

「おかしい」

大地は何か気が付いた。 静かすぎる。

物音が全くしないのだ。

この異変に気付いた大地は駆け足で教室を出て、自分の教室に戻るおとするが… 大地は廊下に立ち止まった。 頭に急激な痛みがはしつたのだ。 大地は倒れ込んだ。

「いてーぞ 頭が割れる」

だが、その痛みは一瞬でなくなった。

「何だ 今の痛みは？」

不思議に思いつつ、自分の教室に向かおうと体を起こし立ち上がり、足を一步前に出し歩き始める が、

『教室の戻り方が分からない』

大地は何故か忘れている。 戻り方が分からないというより、何処に教室があるのか分からないといった感覚だ。 隣の教室が自分の教室なのに、その記憶がない。 ますます混乱していく。

とにかく、ただ立っていてもしょうがないので、大地は校舎を走った。 何故か「教室」という記憶がない大地。 「教室」という言葉は忘れてはいるわけではなく、「教室」という場所を忘れてはいるので、実際に教室があっても通り過ぎていく。 すると、そこに一人の女が立っていた。 その女と目が合った刹那、女は刀を構え、大地に向かつて来た。 すごい殺気が大地の全身を震えただせた。 大地は死んだと思ったが、首ギリギリの所でとまった。

「お前、傷を見せろ」

「？」

「何の事だよ」

女がわけの分からない事言っている。 だが、大地は分からない事ではなかった。

「…傷ってこれのことか？」

制服のズボンを足でめくって見せた。 そこには、×印の傷があった。 それを見ると女は刀を下げた。

「すまなかったな、こうして傷を確認しないことには、分からないからな」

なにか関係があるのか？ 謎の女が大地に話し掛けようとした瞬間だった。天井にヒビがはいり崩れ落ちてきた。大地と女は咄嗟に後方へよける。すると、崩れた天井から何かが降りてきた。体長2？以上ある巨体の両手にかぎ爪をしたやつが降りてきたのだ。

「殺す、殺す。」

なんなんだこいつは… 女は叫ぶ

「こいつはバグだ！ 早く逃げろ！」

バグってなんだよと思いつつも、やばそうなので逃げた。というか、女が叫ぶ前に逃げの体制だったのでスタートダッシュはよかった。

大地は足は速いほうなので、たちまちバグから離れた。階段で下り一階に来たが、大地は知らないが、ここは謎の空間。また症状が起き、「出口」という言葉は分かるが、「出口」となる場所が分からなくなっていた。出口という言葉は分かるのに場所が分からないなんて馬鹿げた話だ。大地は立ち止まった。

「また、頭の痛みはするし 分け分かんねえ事に出口が分からんし…くそー ふざけんなー！」

大地が大声をあげた瞬間、大地の足の傷がうずいた。すると、頭の痛みは消え、足の傷が一瞬光るがすぐ消えた。首をかしげ、腕を組み、眉をひそめて、考え込むようにその場に立ち続けた。しば

らくして考えるのをやめ、歩き始めた。 一步、二歩、三歩と歩いているうちに大地は何気付いた。

「足が軽くなってる!？」

それを確かめる用にジャンプをした。

「!!!!」

「いつてえええ」

廊下の天井に頭をぶつけた。

「いててっ、本当に足が軽いぞ!どーなってやがる…」

場面変わって、謎の女とバグの戦闘

大地は逃げたが謎の女は刀を構え、バグに斬り掛かっていた。

バグの真正面に走り、思いつき刀を振りかざしたが、バグはそれを左のかぎ爪で防御し刀を振り払い、右のかぎ爪で女に向かって攻撃した。 女は瞬時に後方へ回避し、またすぐさまバグに向かって攻撃したが、また防御される。 謎の女は言った。

「これじゃあきりが無い。あの技を使うか」

あの技とは? そう口にすると謎の女は刀を鞘にしまい構え、女は叫んだ。

「紅竜」

体から紅いオーラが出て、背後には紅い竜が一瞬姿を現した。 その竜が女の刀にまわり、素早く刀を抜く! その瞬間ものすごい音と共に、刀の先から炎をまとった紅い竜がバグに向かって放たれ

た。バグはかぎ爪で防御するものも、一閃の如く放たれた攻撃には防御しきれず、バグの腹を突き破り、まとった炎を受けて焼け死んだ。バグは霊子となり天に吸い込まれるように消えた。タンタン 急に階段を掛け上がる音がした。女は刀を構える 階段を上りきり、廊下に頭が見えた瞬間 女は走り、刀を頭に突き付けた。

「動くな！」

「！」

二人は目があった。

「あっ」

「さっきの… 逃げなかったのね」
女は大地だと確認すると刀を下げた。

「逃げようにも逃げられなかったんだよ」

「でももう大丈夫 バグは倒したから」

「バグってさっきの巨体野郎か… えっ！倒したの？」

女がうなづく

「どうやって？」

「この刀でだ」

「本当かあ」

「まったくしつこい奴だな 別に信じなくていいが、しつこい奴は嫌いだ。」

まだ疑いの眼で見ている大地。すると、女の後ろの焼け跡に気付く。

「なんだありゃ 焼け跡がある」

「あれは、私の技で倒したからあのように焼け跡になっているだけだ」

「本当にいゝ」

「…」

女は黙っている。さすがに大地もしつこいと思ったのか話をそらす。

「あれだな その事はおいとして、質問だ。」

女は大地の顔を睨むように見る。こわい…
目をそらす為に咳払いをし、話始める。

「ゴホン あっ あゝ まず一つ目は、ここは何処だ？」

「地球だ」

「んなことは分かってんだよ！ 俺が聞いてんのは、変な怪物が現れ出口も分からなくなり、頭が痛くなるような場所を何処だと聞いているんだ！」

「お前の言葉遊びに付き合ってる場合じゃないんだよ」

「はあ……」

女はため息をもらす。

「いいか、よく聞け。簡潔に説明する」

女は静かに話し始めた。

「ここは真正銘地球だ。まず間違いない。だが、お前や私達が住み慣れた地球とは違う、もう一つの地球もまた地球だ。」

「仮に私達が住んでる地球を旧地球とし、もう一つの地球を新地球としよう。」

「そして、今お前と私がいるこの場所 いや、この異空間は旧地球と新地球が重なった場所だ。」

「……」

大地が黙るのも当然だ 意味が分からない。女は続けた。

「要するに、二つの地球が重なる事によって、バグが出現し、今の異空間が出来るわけだ。」

大地には、理解出来ない。さっきと同じことを言ってるように聞ける。

（この女説明下手くそだな）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2142i/>

侍ノ刀

2010年10月12日03時18分発行